

実践としての 科学的認識

『客観性』『ラボラトリー・ライフ』を読む

開会挨拶 **河村 賢** 大阪大学社会技術共創研究センター

『ラボラトリー・ライフ』紹介 **金 信行** 東京大学

『客観性』紹介 **瀬戸口 明久** 京都大学

評者報告 **前田 泰樹** 立教大学

鈴木 舞 東京電機大学

金 凡性 東京理科大学

閉会挨拶 **立石 裕二** 関西学院大学社会学部



2022年 対面・オンライン併用開催

7月24日(日)

13:00-18:00 人文研本館大会議室

本シンポジウムは対面とZoomウェビナーを利用した
オンライン視聴を併用して実施します



- 対面での参加を希望される方
以下のアドレスまで氏名を明記のうえご連絡ください。
z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp
*定員(20名)に達次第、募集を締め切りますので予めご了承ください。
- オンラインでの視聴を希望される方
左のQRコードまたは以下のリンクから事前登録をお願いいたします。
https://zoom.us/webinar/register/WN_bsb81ejaRS00JOHhjoL0Bw
*ご登録いただいたメールアドレスに追って視聴用URLが送付されますので、
シンポジウム当日はそちらのURLにアクセスをお願いいたします。

主催 京都大学人文科学研究所
共催 アクターネットワーク理論と社会学研究会

お問い合わせ
京都大学人文科学研究所 総務掛
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-6902 (月~金 9:00~17:00)
mail:z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp



<https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>

人文研アカデミー 2022

『客観性』『ラボラトリー・ライフ』 合同合評会

実践へと帰れ。ラトゥール&ウールガー『ラボラトリー・ライフ』（ナカニシヤ出版、2021年、原著1979年）を嚆矢とする実験室研究は、「真理」、「実在」、「客観性」といった高度に哲学的な概念の作動を、実験や観測といった科学者たちの具体的な実践のなかで検討するという方向性を切り開いた。それから約30年後、ダストン&ギャリソン『客観性』（名古屋大学出版会、2021年、原著2007年）は、科学者たちの実践を可能にし、その実践と共に生み出される概念の歴史的生成をも記述する道を指し示す。実践の解明という実験室研究以降の課題と、概念の歴史的探究というフーコー以降の課題。この二つの作業の関係性を明確化し、私たちが生きる認識論を明らかにするために、私たちは『客観性』という到達点から『ラボラトリー・ライフ』の可能性の中心へと遡らねばならない。

訳書紹介

金 信行 Nobuyuki KIM

東京大学大学院学際情報学府博士課程

専門 科学技術社会学 経済社会学 組織論

著書 『アクターネットワーク理論入門 —「モノ」であふれる世界の記述法』（第5章と第6章を担当、ナカニシヤ出版、2022年）

論文 “On “infra-theory” or “infra-language”: A clarification of Actor–Network Theory via Bruno Latour’s case studies” (Journal of Asian Sociology, 2019) など

瀬戸口 明久 Akihisa SETOGUCHI

京都大学人文科学研究所准教授

専門 科学史

著書 『害虫の誕生』（ちくま新書、2009年）

『日本の動物観』（共著、東京大学出版会、2013年）など

評者

前田 泰樹 Hiroki MAEDA

立教大学社会学部教授

専門 医療社会学 エスノメソドロジー

著書 『急性期病院のエスノグラフィー』（共著、新曜社、2020年）

『遺伝学の知識と病いの語り』（共著、ナカニシヤ出版、2018年）

『心の文法』（新曜社、2008年）など

鈴木 舞 Mai SUZUKI

東京電機大学未来科学部准教授

専門 科学技術社会学論

著書 『科学鑑定のエスノグラフィ：ニュージーランドにおける法科学ラボラトリーの実践』（東京大学出版会、2017年）

『科学技術社会学（STS）：テクノサイエンス時代を航行するために』（共編、新曜社、2021年）など

金 凡性 Boumsoung KIM

東京理科大学教養教育研究院教授

専門 科学史

著書 『明治・大正の日本の地震学 —「ローカル・サイエンス」を超えて』（東京大学出版会、2007年）

『紫外線の社会史 — 見えざる光が照らす日本』（岩波書店、2020年）など

access

